

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

346号

2019年12月号

자주

発行 在日韓国民民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

GSOMIA(韓日軍事情報包括保護協定)条件付き終了猶予の背景

11月22日、韓国大統領府の金有根(キム・ユグ)国家安保室第1次長が「いつでも失効が可能という前提で、G I S O M I A 終了通告の効力を停止する」と表明し、協定を事実上延長することを発表した。また韓国が日本の輸出管理強化措置を世界貿易機関(WTO)に提訴したことに関し、「対話が続く間は提訴手続きを中断する」と明らかにした。

昨年10月30日、日帝強占期における強制動員被害者への賠償を認めた韓国大法院判決を受け、安倍首相は「請求権協定により解決済み」と強弁して、「大法院判決は国際法違反であり、受け入れられない」と表明、文在寅大統領に「善処」を求めた。文大統領は「司法の判断であり、法治国家として政府が介入できない問題である」として日本政府への不満を表明した。

今年7月1日、経産省は日韓間の信頼関係が著しく損なわれたことを理由に、半導体材料の韓国向け輸出管理の厳格化を内容とする輸出管理運用の見直しを行ったのに続いて、8月2日には輸出管理を簡略化するホワイト国から韓国を除外する政令改正を閣議決定した。

8月22日、韓国大統領府は金有根国家安保室第1次長が「G I S O M I A を終了する」と発表した。ここで注目されるのは、日本側は世耕経産相(当時)が輸出厳格化措置を発表したのに対し、韓国側は大統領府の国家安全保障室がG I S O M I A 終了を発表した点だ。韓国は米国と違って大統領府と総理府があり、それぞれ似たような統治

機関を持っているので、今回は大統領の意向が強かったと見るべきだ。つまり今回の応酬は、日本側は大法院判決を蒸し返しと受け止め、韓国の輸出産業の多くを占める半導体製造に欠かせない素材を遮断することで、韓国側の譲歩を狙ったのに対し、韓国側はこれを安全保障上の問題と受け止めたということだ。韓日の深刻さの度合いが浮き彫りになった格好だ。さらに、近年日本は軍事大国化をほぼ終え、朝鮮半島「有事」の際、自衛隊の参戦が確実視される中、日本の軍事大国化を後

押しする米国への密かな「懸念」を抱く韓国側は、G I S O M I A を材料に米国へ何らかの働きかけを行ったと見られ、今回の終了発表は不満の表れと見る見方も多い。しかし、結果は米国に押し切られる恰好で「条件付き終了延期」の発表となった。終了期限の1

週間前の11月15日、日本と韓国を訪問したエスパー米国防長官は大統領府に赴き、G S O M I A の延長を文大統領に強く迫った。シュライバーインド・太平洋安保次官補、ミルリー合同参謀本部議長など、外交安保ラインの核心を総動員して圧力を加えたが、この場では文大統領は「安保上(日本を)信頼できない」という理由で継続できないとの立場を再確認したが、結果は「条件付き終了延期」だった。国民の50%以上が「延長反対」「終了賛成」だったのに、国民の声より米国の声に耳を傾けた文大統領の判断には多くの国民が失望しただろう。今回の文大統領の判断は朝鮮半島の自主的平和統一への路を狭くし、新たな隘路に繋がるものだけに実に残念だ。(鐵)



▲「米国の圧力でGSOMIA延長は恥辱だ」と訴える韓国民衆

裴東湖先生の「愛国論」を学び

朝鮮半島情勢について討論する

2019年韓統連秋期研修会

韓統連中央本部主催による「2019年韓統連秋期研修会」が11月10日(日)、尼崎中小企業センター(兵庫県尼崎市)で開かれた。

研修会では、崔孝行(チェ・ヒョハク)韓統連兵庫本部代表委員が開会挨拶を行った後、第1部として宋世一(ソン・セイル)韓統連中央本部副議長が講師を担い、裴東湖(ペ・ドンホ)韓統連中央本部元議長の著書「愛国論」第1章の学習を行った。



▲「愛国論」について解説する宋世一副議長

宋副議長は「愛国論」第1章「祖国を愛すること」については「愛国と愛国主義についての基礎的な定義がなされており、真の愛国主義の基本性格を明らかにしている。愛国の基礎的な定義とは▲祖国を愛する感情▲思想▲行為をいう」と述べながら、一つ一つ詳細に解説した。

続いて宋副議長は「愛国主義」について解説しながら「愛国主義の確立のための課題として▲正しい認識にもとづいて不条理と対決する姿勢を確立すること。▲民衆の抵抗意志を組織化する道を模索すること」などと指摘し、「民衆に依拠した愛国力量を構築し、政治的統一と組織的団結を図ることが重要だ」と語った。

研修会の第2部では、最近の朝鮮半島情勢について報告が行われた。宋副議長は10月に開かれた朝米実務協議が決裂したことについて「北朝鮮は以前から米国側に信頼関係構築のための段階的・同時的作業を求めていたが、実務協議でも米国の態度変化が見られなかったため決裂した」と指摘しながら、「年内の朝米首脳会談開催は、トランプ大統領の決断にかかっている」と語った。

そして、韓国内の情勢について宋副議長は「文政権は検察改革、選挙制度改革など改革を推し進めようとしているが、国会内で与野党の攻防が継続している。改革がなかなか進まないのは70年以上続いている積弊が現在も存在しており、早期に正しく清算していかなくてはいけない」とし、

「韓統連は南北海外の民族力量、韓国の民衆力量、日本の反戦平和勢力の全てにかかわっている。2020年は重要な年になる。上記の力量を活かしながら運動を進めていこう」と語った。

報告終了後は活発な質疑討論が行われ、最後に金隆司(キム・ユンシ)韓統連大阪本部代表委員が開会挨拶を行い、秋期研修会は終了した。

スライドなどを活用して分かりやすく

祖国の未来像を共有する

韓統連生野支部シリーズ学習会③

韓統連生野支部主催の学習会「ウリナラ2000年ロマン」シリーズの3回目にして最終回の「ウリナラ未来予想図」が11月17日(日)、韓統連生野支部で開かれた。



▲スライドを活用して報告する金昌範代表委員

報告者の金昌範生野支部代表委員は最初に、前回の第2回「ウリナラ地理・風土」で報告されたウリナラの地下資源の話の続け、複数の周辺国による情報や、資料及びブルポ情報などを用いてさらに深掘りした。そして「ウリナラ南北が民族共助し、適切に双方の持つ力を結合できれば、世界の注目に値する繁栄した民族社会と、新たなアジアの経済地図形成の契機となる」ことを示した。

次に、そうした南北共助の障害となっている国連及び米国・日本などによる制裁の経緯と内容について報告した。その中で国連安保理決議システ

ムの不公平性を指摘するとともに、「制裁継続中であっても開城工団の再操業を実現させ、南北の信頼関係をより深める方途がある」ことも指摘した。

3番目に、ウリナラの真の平和実現の道を探るため解放後、朝鮮戦争を経て現在に至る軍事緊張状態の中で、平和なウリナラ実現のために南北、特に北側が90年代初頭までに行った国際社会へのアプローチを紹介した。さらに2010年発表の朝鮮外務省備忘録「朝鮮半島と核」という文章を用い、北が核武装に至った考えと理由を示し、「米国の核攻撃脅威さえなくなれば、一気に非核化へと動き、世界とともに核廃絶の流れをつくる意思があり、それは現在にもつながっている」と報告した。

最後に報告者は「一連の脈絡から朝米関係で信頼醸成され米国による敵視政策がなくなれば、それは祖国統一のみならず、東アジア情勢が平和へと向かう一大転換点となる」と述べた。

パワーポイントによるスライドショー形式の報告が「いつも以上にわかりやすかった(参加者の声)」ことも相まって、報告後の交流会を含めた2時間余りは「未来予想図」をテーマにした議論で終始にぎわう、文字通りの盛会となった。

全国の仲間が集まり 公権力による労働組合弾圧を糾弾する！ 声を上げよう！弾圧許すな！ 11・16全国集会

昨年から続く公権力による全日建連帯労組関西地区生コン支部への弾圧に抗議の声を上げるため「声を上げよう！弾圧許すな！11・16全国集会(主催：同実行委員会)」が11月16日(土)、西梅田公園(大阪市北区)で開かれ、全国各地から1200名が参加した。

集会では初めに、呼びかけ人を代表してフォーラム平和・人権・環境の藤本泰成共同代表が挨拶を行い「関西生コン支部の活動は労働者の権利を実行しているだけで、何も違法なことはしていない。お金を儲けたいだけの勢力が関西生コン支部

を弾圧している。絶対に許してはいけない」と語った。

続いて、全日建連帯労組中央本部の菊池進執行委員長が、この間の経過説明を行った。菊池委員長は「昨年から執行役員及び組合員多数が逮捕されるとともに、保釈されても組合事務所に行っただけではいけない。仲間と会ってはならないなど厳しい条件が付けられている」と述べながら、「仲間の早期奪還のために団結を強化して闘っていく」と決意を語った。



▲経過説明を行う菊池進執行委員長

抗議集会には沖縄平和運動センターの山城博治議長も参加し、アピールを通じ「沖縄の基地撤去・平和を求める団体にとって、関西生コン支部はかけがえのない支援団体であり、今回の弾圧は私たちへの弾圧でもある。今、弾圧を跳ね除けないと近い将来、全ての市民社会に入り込んでくる危険なものだ」と述べながら、「信念を貫いて獄中で闘っている仲間を激励しながら、必ず勝利しよう」と訴えた。

その後、集会参加者全員が「弾圧やめろ!」と書かれたプラカードを頭上に掲げるパフォーマンスを行った。そして川口真由美さんのミニコンサート、弁護団などからのアピール、集会決議が行われ、最後に実行委員会事務局長の小林勝彦さんが閉会挨拶を行い、集会は終了した。

集会終了後、参加者はデモ行進を行い、「組合つぶし絶対許さん!」「安倍政権は憲法を守れ!」などのスローガンを叫び、道行く人々に訴えた。

【投稿】

キャンドル革命がもたらしたもの

先日、韓国のMBCテレビで「大統領と国民との対話」という対談番組が放送されました。スタジオには韓国の各階層から選ばれた300人の様々な年齢層の国民が集まりました。

進行は台本なし。手を挙げた人を無作為に指名し、その質問に大統領がその場で答えるというものです。番組が始まってしばらくして、「これは大変なことになるぞ」と思いました。なぜならあまりにも多様な人々が、自身が社会において置かれた困難な状況について訴えかけていたからです。

内容は広範囲にわたり、ある意味まとまりがなく、どうなるのかと心配しました。でも、一人ひとりの国民の切実な訴えに誠実に答えようとする大統領の姿勢に、やがて会場は落ち着きを取り戻していきます。

100分間の予定だった生放送は大幅に延長されました。放送後には質問できた人も、できなかった人も大統領とツーショットで写真を撮り、満足気な表情でした。会場全体が表現できない熱気に包まれていました。



▲積極的に手を挙げ、文大統領に質問する参加者

■大切なのは「答え」ではなかった

そこで感じたのは、大切なのは「答え」ではなく「解決しようという姿勢」だということです。今の韓国に確実に存在しているものは、自分たちが今抱えている問題は解決可能であり、国家はそれに応える義務があるという確信です。あきらめや、冷めた視線はありません。

「私も、私も」と手を挙げる、その姿勢と大統領の回答に向ける真摯なまなざしには「社会は変わるものであり、変えるものである」というキャンドル革命の精神が息づいていました。

当初、現在の政治的な問題に対する深く突っ込んだ討論を期待していた私は、はじめは失望し、やがて深い満足感に包まれました。そこには希望があったからです。

会場には自分たちが選んだ大統領に対する信頼と、これから、より良い世界を作っていくという

う熱い思いが存在していました。ここが日本と韓国の政治の一番大きな違いだと思いました。

■革命後の反動勢力とのたたかい

「変わる、変える、変えてみせる」という強い決意と政治に対する高い関心。キャンドル革命が成し遂げた成果はあまりにも大きいものでした。ただ、変革を望む人たちにとっては、今の韓国の状況はとてももどかしいことでしょう。問題点は山積みなのに、国会では弾劾の残存勢力である自由韓国党が変革を全力ではばんでいます。裁判に目を向ければ、前政権で与党に加担して断罪された人間たちが次々と保釈を許され、のうのうと街を闊歩しています。

今の韓国はまさに、フランス革命後のアンシャンレジーム（王政復古）のような混沌状況です。旧体制の復活をもくろむ勢力の猛反撃が続いている状態だといえるでしょう。そして、日本の安倍政権もまた、韓国が以前の体制に戻ることを心から望んでいるのです。

■政治に対する高い関心が未来をつくる

解放後、一度も清算されることのなかった親日派が、今も社会の中枢を占める韓国において、そのシステムを根こそぎ変えることは、大統領ひとりの力でできるものではありません。その構造を根本から崩すのが、まさしく南北の統一なのです。革命に反対する勢力の激しい抵抗は、彼らが統一をどれほどおそれているかを示すものです。

まさにこれからが正念場です。統一こそが、これまで韓国にはびこってきた分断のパラダイムを変える、はじめの、そして大きな第一歩なのです。番組の中で、統一に向けての大統領の自信にみちた答えに、明るい未来を感じました。

「真の勝利は敵に勝つことではなく、敵がこちらの言葉をしゃべりはじめることである。そのとき、こちらの理念が全体の基礎になる（ジジェク）」
(ヘス)

【コラム】

高句麗の仏教

中国・前秦の王である苻堅（ふけん）が、僧侶の順道に仏像と経文を持たせて送り、高句麗に仏教を伝えたのは372年（高句麗・小獣林王2、前秦・建元8）の夏6月のことだったと『三国史記』に記されている。翌373年には阿道という僧侶が東晋から渡来し、374年に小獣林王は肖門寺・伊弗蘭寺の二寺を建てて、それぞれに順道・阿道を置いた。これが朝鮮半島における仏教の始まりだとされている。これ以前すでに仏教が高句麗に伝来していた可能性も指摘されているが、372年の伝来は国家が主導した仏教受容だという点に意義がある。

高句麗の小獣林王は、かの有名な広開土王の伯父にあたる。父王である故国原王の時代、前燕との戦いで首都を失陥して降伏を余儀なくされ、さらに百済との戦いでは平壤城で故国原王が戦死し、高句麗の社会が大きな動揺を見せていた中で小獣林王は即位した。

人心の安定は急務だった。彼はその在位14年の中で、国家基盤の整備事業を推し進め、国立教育機関である太学（たいがく）の設置、律令の頒布（はんぷ：物を広く分けたり、配ることで行き渡らせること）といった業績を残した。

仏教の公的受容もその業績の一つとなる。小獣林王は前燕を滅ぼした前秦と友好的な関係を保ち、朝貢使を派遣したが、前秦王の苻堅は仏教に対する関心が厚く、後には高名な僧侶である道安（どうあん）を身边に置き相談役としていた。外交関係の安定と国家体制の整備を急ぐ高句麗が、前秦から仏教を招来するのは当然の流れだったと言える。国家を軸とした仏教信仰は、高句麗が部族国家から中央集権国家へと変わる基盤となった。

当時の中国仏教は、中国古来の老荘思想による解釈から離れて仏教本来の解釈をもとに仏典を理解する段階に入っていた。310年、西域のクチ

ャ出身である仏図澄（ぶつとちょう）が洛陽に渡来し、その神通力と予言をもって名を高め、持戒に基づいた生活を万人の信徒に教えた。その弟子である道安もまた多くの信徒を集め、苻堅の信任の下、多くの仏典の翻訳と研究を行い、中国仏教の基礎を築き上げた。

高句麗仏教はまさに変革しつつある中国仏教を学ぶ形で始まり、中国に求法留学する高句麗僧も出てきた。『海東高僧伝』によれば、576年

（平原王18年）に前斉の定国寺に義淵（ウイエン）を派遣し、翻訳経典の著述者および著述の縁起などを学ばせている。

またその学識をもって活躍する高句麗僧もいた。僧朗（ソング）は敦煌において『三論学（『中論』『十二門論』『百論』を主に研究する学統）』を学び、中国の『三論学』学統の後継者になったと伝えられる。この『三論学』は後に吉蔵（きちぞう）によって大成し、625年に吉蔵の弟子で高句麗僧の慧灌（ヘガン）が日本に伝え、南都六宗の一つ『三論宗』として興隆した。

しかし高句麗末期になると、道教の五斗米道が高句麗国内に伝来し、624年（栄留王7、唐・武徳7）には唐の太祖が天尊像と道士を高句麗に送り、高句麗の道教受容が始まった。これに伴い高句麗仏教は次第に国家の保護下から外れていく。650年（宝蔵王9）、高句麗の高僧だった普徳（ポドク）は、宝蔵王に道教偏重をやめるよう諫言したが容れられず、百済の孤大山に移住して景福寺を創建し、後の『涅槃宗』の開祖となった。それから18年後の668年（宝蔵王27）、唐と新羅の攻撃によって高句麗は滅亡することになる。仏教伝来から296年のことだった。（好）



▲高句麗の仏像



◆◆書籍紹介◆◆

「統一の道にたたずんで」

著者：高性華／同時代社
2300円＋税

著者の高性華(コ・ソフア)氏は韓国の非転向長期囚の一人だ。私がこの方々の存在を知ったのが約40年前。大学時代に参加した在日韓国人留学生スパイ団デッチあげ事件＝11・22救援運動の中だ。白玉光・李哲・康宗憲氏や金大中氏らへの死刑執行阻止へあらゆる手を尽くし、ようやく命が救われる見通しが出てきた時に、救援会の人から「何十年も長期投獄されている人が何十人もいる」と教えられた。それから40年が経ち、韓統連の幹部から紹介されたのが高さんの半生をつづったこの本である。



の到来で70才過ぎて釈放されたが、もっと長い40年以上の被投獄者達の事も具体的に描写されている。

「社会主義思想と統一への情熱と実践こそ我が生命」という信念を貫く不屈の姿に感動の涙をおさえることができず、結局3回も読む羽目になった。

革命の闘士であるが人間性にあふれていて、裏切者や看守にも暖かい視線を投げかけ、一方、自分には規律と自己批判を科し、活動に自省を欠かさない姿勢。自身の活動歴を自慢する事なく「恥じ入るばかりだ」が「口癖」。永年活動していると、つい傲慢になったり、同志を見下したりしそうになるが、社会主義者たらんとする身として高さんを終生見習いたい。

分断の38度線の標石を表紙に使い、朝鮮人社会主義者の回想という副題に心を惹かれた。初めに出身地と生年が書かれている。我が亡父と近い生年

(金日成主席とも近い)。少年時代から民族解放闘争に参加し、故郷の牛島、済州島、釜山、清津を駆け抜け、日本へ来て共産党や反帝同盟に参加し、浜寺公園で秘密会議をしたり、縦横無尽の活動が生き生きと描かれている。

日帝下でも捕まったら命が危なかったが、戦後は南朝鮮労働党の大幹部として統一と民主に命がけで取り組んだあげく投獄、特に2度目は20年の長きにわたり極限の獄中生活を経験。文民政治

晩年、大阪で講演されたい。亡くなっているので残念ながらもう聞くことはできないが大丈夫。李宗樹(イ・ジョンズ)さん(学生時代にその名をビラで見た記憶がある在日韓国人元良心囚人だ)の誠実な訳による本書が講演の代わりにしてくれる。お申し込みは韓統連大阪本部までどうぞ。私の本は?・・・同志に話したら所望され、貸し出し中だ。(日朝市民連帯・大阪事務局 古賀滋)

韓統連パンフレット「今こそ韓日関係を考える」 主な内容

韓日条約締結の背景と問題点／韓日条約締結後の韓日関係
徴用工問題に関する韓国大法院判決／安倍政権の対応
文政権の対応／「安倍糾弾市民行動」の結成とその闘い 他
1冊：300円

※購入希望の方は、06-6711-6377 韓統連大阪本部まで連絡下さい



編集後記

今年も残り1ヶ月となりました。今年もいろいろな事がありました。自主(チャジュ)新年号に向けて準備を進めています。お楽しみに。(ソン)

